



EL SALVADOR

学校名：木更津市立金田小学校

氏名：田仲 永和

〔担当教科：小学校全教科〕

● 実践教科等：総合的な学習の時間

● 時間数：6時間

● 対象生徒：小学校3年生

● 対象人数：23人

1 単元名

日本とエルサルバドルは似ている？似ていない？

2 単元の目標（ESDの能力・態度）

- ・エルサルバドルと日本の共通点と相違点に目を向け、様々な角度から物事を考える力を育てる。
（多面的・総合的に考える力）
- ・エルサルバドルについて知り、異文化への興味・関心を深める。
（進んで参加する態度）
- ・エルサルバドルと日本の関わりを通して、自分たちの生活を振り返る。
（つながりを尊重する態度）
- ・エルサルバドルの現状を知り、自分にできることを考える。
（他者と協力する態度）

3 ESD(持続可能な社会づくり)の視点

多様性	相互性	有限性	公平性	連携性	責任性
-----	-----	-----	-----	-----	-----

- ・エルサルバドルの学校生活と日本の学校生活の違いに気付く。【多様性】
- ・貧困が犯罪を、貧困が犯罪を招く連鎖する状況を知る。【相互性】
- ・エルサルバドルと日本との関係から、自分とのつながりに気付く、共生の大切さを知る。【連携性】
- ・エルサルバドルの問題に向き合い、今の自分にできること・したいことを一人一人考える。【責任性】

4 単元の指導について

(1)教材観

現代の国際社会に生きる限り、外国との関わりは避けられず、どんなに平凡な日々を過ごしていても、日常生活の中で外国と無関係に生きることは不可能と言ってもよいほど国同士の関係は近くそして複雑になってきている。

しかしながら、普段の生活の中で、外国に目を向けることは稀であり、意識してアンテナを張っていないと情報は入ってこない。平和で公正な世界を願う子どもたちを育てるためにも、＜(1)知る。(2)考える。(3)変わり、行動する。＞の3ステップを視野に入れ、本学年では、特に(1)～(2)のステップを中心に単元を構成したい。

国際理解教育というと、他国との違いを知る、つまり異文化理解のイメージが強い。小学校学習指導要領解説(外国語活動、総合的な学習の時間)には、次のような記述がある。

【外国語活動】内容

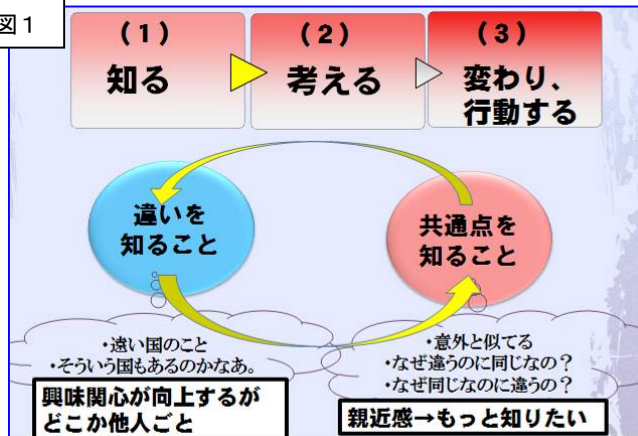
- (1)外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、・・・(後略)
- (2)日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。
- (3)異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、・・・(後略)

【総合的な学習の時間】内容の取り扱いについての配慮事項

(7)の解説

(前略)・・・広く様々な国や地域を視野に入れ、外国の生活や文化を体験し慣れ親しむことや、衣食住といった日常生活の視点から、日本との文化の違いやその背景について調査したり追究したりすることが重要である。

図1



学習指導要領の記述では「違い」が大きく強調され、「共通点」という視点がない。図1に示したように違いだけを学習すると、他国に一時的に興味はわくのだが、どこか他人事で意欲は持続しないのではないかと考えている。自分自身のこれまでの指導を振り返ってもそのような経験がある。

そこで、違いだけではなく、共通点を知ることにもメインとしてとらえ、この双方をスパイラル的に学習していけば、「意外と似ている」と親近感を感じた上で、「なぜ～は違うのに～は同じなの？」「なぜ～は同じなのに～は違うの？」と、より深く知りたいという主体的な学習意欲を引き出せるのでは、と考えた。

(2) 児童生徒観

本校児童に「行ってみたい国はどこか？」とアンケート調査をしたところ、欧米諸国がほとんどで、ブラジルW杯の影響で、ブラジルやアルゼンチンが数人いる程度であった。開発途上国と言われる国に行ってみたいと答えた児童はほとんどいなかった。

外国人と接する機会は学校(ALTの先生)が英会話教室に限られ、学区内で外国人を見かけることはほとんどない。それゆえ、外国と言えばTVなどで知るヨーロッパやハワイなどのイメージが強く、開発途上国に興味を持つ児童が少ない。JICAの組織や活動について知っている児童も皆無であった。

(3) 指導観

小学校3年生という発達段階も考慮し、写真・動画・体験をたくさん活用したい。共通点を学ぶのにはまず、けん玉などの遊び体験から入り、日本のアニメなどがエルサルバドルでも人気だということが分かる動画も見せる。さらに、久保隊員(小学校教諭)のインタビュー「エルサルバドルの子も日本の子もいいところは同じ」という場面から、違いばかりに視点が行きがちな児童に、共通点も考えさせたい。

また、ランキングシートを活用し、自分がやってみたいことを考え、話し合う時間を取りたい。一度だけでなく、数回活用することにより、児童の思考の変化が分かるので評価にも活用したい。

5 評価規準

観点	自己の生き方	知識・理解	他者や社会との関わり	関心・意欲・態度
評価規準	・エルサルバドルと日本の共通点・相違点から、自分の生活を振り返ることができたか。	エルサルバドルの現状や日本の協力について知ることができたか。	世界の問題を知り、自分に今できることや将来したいことを考えることができたか。	積極的に意見を発表したり、友達と話し合いをしたりすることができたか。
評価方法	ワークシート記述 ランキングシート	ワークシート記述	ワークシート記述 ランキングシート	発言 グループ活動様子

6 単元の構成

※太枠の授業内容詳細を「7授業事例の紹介」に記載

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	エルサルバドルってどんな国？	エルサルバドルの概略を知り、これからの学習の土台を作る。	・似てる度%(1回目)を書く。 ・先生が何のためにエルサルバドルに行ってきたかを知る。 ・国の概要(場所・大きさ・国旗・食べ物・人の印象など)をパワーポイントで学ぶ。 ・スペイン語で簡単なあいさつを練習する。
2	エルサルバドルと日本は何がちがうの？	日本とエルサルバドルの違いが分かる写真を見て、異文化への興味関心を高めるとともに、自分たちとの違いに気づく。	・日本との違いが分かる写真でフोटラングージを行い、グループごとに発表する。 ・フोटラングージの写真やその他の写真を見てエルサルバドルの問題を知る。 ・「自分が今やってみたいこと」のランキングを、グループごとに話し合って決める。 ・似てる度%(2回目)を書く。
3	エルサルバドルと日本は似ているところもある？	遠く離れたエルサルバドルにも、自分たちとの共通点があることに気づき、親近感を持つ。	※7 授業事例の紹介(前半) 参照

4	エルサルバドルと日本の子どもたちは似ている？似ていない？	エルサルバドルの学校生活を知り、金田小学校との相違点や共通点に気付く。	※7 授業事例の紹介(後半) 参照
5	エルサルバドルの人たちは本当に幸せなの？	厳しい環境のなかでも、幸せに感じている人がいることを知り、幸せについて考える。	・エルサルバドル内戦について知り、それとともなって起こるエルサルバドルの様々な問題を知る。 ・学習の感想と似てる度%を書く。(5回目)
6	日本の協力を知り、自分にもできることを考えよう。	JICAの協力には様々な種類があることを知り、自分たちにもできることを考える。	・主にエルサルバドルのボランティアの活動を知る。 ・ランキングシートで自分たちがしたいことをグループごとに話し合い、その理由を発表する。 ・学習の感想と似てる度%を書く。(6回目)

7 授業事例の紹介

小单元名 【エルサルバドルと日本は似ているところもある？】

【エルサルバドルと日本の子どもたちは似ている？似ていない？】

ハンモックで遊ぶ金田小の児童

(1) 指導案

(ア)実施日時 11月18日(火)第3～4限

(イ)実施会場 3年1組教室

(ウ)本時の目標

- ・遠く離れたエルサルバドルにも、自分たちとの共通点があることに気づき、親近感を持つ。
- ・エルサルバドルの学校生活を知り、金田小学校との相違点や共通点に気付く。

(エ)指導のポイント

- ・写真や動画資料の活用。
- ・けん玉、コマ、ヨーヨーで遊ぶ時間を十分に取る。
- ・＜似てる度%アンケート＞＜幸せ度アンケート＞結果を活用。
- ・ランキングシートの活用。

＜似てる度%＞日本とエルサルバドルがどれくらい似ているか「0～100」の数値で表したものだ。

(オ)本時の展開

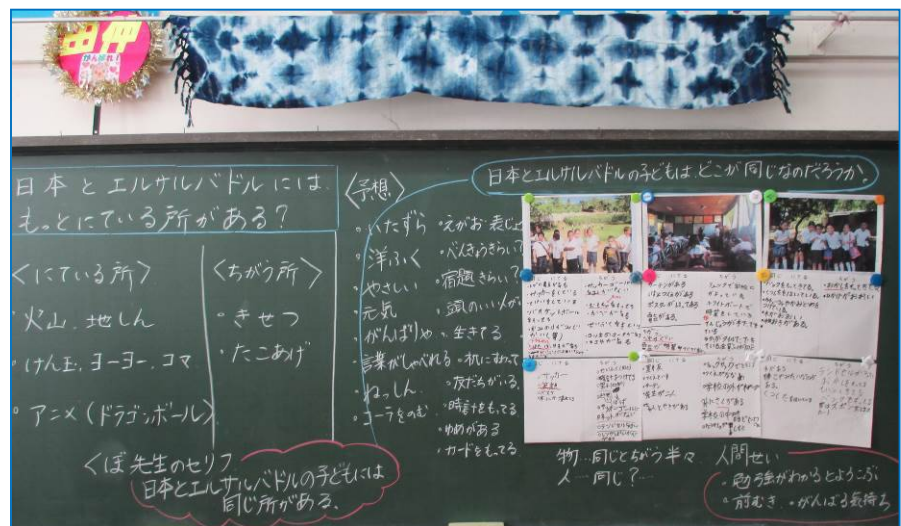
過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
導入 ① 10分	・似てる度%集計結果を示す。 ・クイズ問題を出す。	・前時の似てる度%の平均値から学習問題をたて、似てる度%を再度決める。(3回目) ・クイズ形式で、エルサルバドルの気候・火山・地震や、日本とエルサルバドル共通のおもちゃを知る。	一斉	○パワーポイント資料を活用する。	
展開 ① 30分	・けん玉などのおもちゃを配る。 ・アニメ動画をTVで再生する。 ・パワーポイント資料を見せる。	・けん玉などのおもちゃで自由に遊ぶ。 ・ドラゴンボールのアニメを視聴し、日本の文化がエルサルバドルで受け入れられていることを知り、親近感を感じる。 ・小学校教諭久保隊員の写真を見せ、次時の学習問題を作る。「日本とエルサルバドルの子どもはどこが同じ？」	個別 一斉	クイズ:どれがあるでしょう。 ① コマ回し ② たこあげ ③ けん玉 ヨーヨーもあります！ 小学校の先生(サンタヘマ・カトリック学校) くら 青年海外きょうりょくたいいん にいがた県出身。かながわ県で先生をしていた。 日本とエルサルバドルの子どもたちは同じところがあります。 どんなところが同じなんだろう？ちがうところを考えるのもわずれずに。	
まとめ ① 5分	・ワークシートを配り書かせる。	・ワークシートに本時で学んだことをメモする。	個別		◎違いだけでなく、共通点に気づき、親近感を持つことができたか。

導入 ② 10分	・児童の予想を板書する。	・前時にたてた学習問題から、自分なりの予想を持ち、全員発表する。	一斉	○発表に抵抗がなくなるよう、予想をワークシートに書いたら隣同士で意見交換の時間を設ける。	
展開 ② 25分	・フォトランゲージ用の写真を配る。	・予想が正しいか確認するため、学校の写真でフォトランゲージを行い、共通点・相違点を見つけ、グループごとに発表する。	グループ	○限られた時間でたくさんの気づきが得られるよう写真を3種類使う。	
	・ビデオを再生する。	・久保隊員のインタビュービデオを視聴し、エルサルバドルと日本の子どもの良い所の共通点を知る。	一斉	○動画にテロップをつけて、大事なセリフを逃さないようにする。	◎自分にできることを考えることができたか。
	・ビデオを再生する。	・学校訪問ビデオを視聴し、エルサルバドルの学校の雰囲気をつかむ。		○共通点だけでなく、相違点もしっかりつかめるようなビデオや画像を使用する。	◎学校生活の違いと共通点があったか。
	・アンケート結果を示す。	・金田小学校とエルサルバドルの1000円(10ドル)の使いみちや、幸せ度アンケート結果を見て、自分たちとの共通点・相違点を考える。		幸せ度アンケート 「あなたは今幸せですか？」 エルサルバドル サンタヘマ校 小学校5・6年生 【とても幸せ】【幸せ】 金田小学校3・4年生 【とても幸せ】【幸せ】 97% 88%	
まとめ② 10分	・ランキングシートを配る。	・グループごとに話し合い、前回並べたランキングシートを並べかえる。	グループ		
	・ワークシートを配る。	・学習の感想と、似てる度%を書く。(4回目)	個別	※幸せ度アンケートは「とても幸せ」「幸せ」と答えた児童の割合。	

(2) 授業の振り返り

単元の第2時では違いに焦点を当てたフォトランゲージを行った。似てる度%のクラス平均値は約40%であった。第3～4時終了後の似てる度%は72%と、大きく上昇する。自分たちとの共通点を見つけ、うれしそうな児童の姿が見られた。やはり、共通点探しは親近感を抱くキーポイントだと感じた。

久保隊員のインタビューでのセリフ「日本もエルサルバドルも子どもは同じところがある。」を取り上げ、何が同じか予想させたことは、児童の反応も良く、成功だったと思う。「前向き」「頑張る気持ち」「勉強が分かると喜ぶこと」が同じ良さということだったので、改善点はそのことがより分かるような写真や動画を用意することである。



(3) 使用教材

- ・エルサルバドル国旗(教室に掲示)
- ・エルサルバドルの小学校で使われている教科書
- ・エルサルバドル産コーヒー(第1時でチャック付ビニール袋に入れて香り体験。)
- ・けん玉、ヨーヨー、コマ(第3時で体験)
- ・ハンモック(校庭の木に取り付け、体験)
- ・藍染めシャツ(これを着て授業)
- ・藍染めスカーフ(手作り。教室黒板上に掲示)
- ・エルサルバドル代表サッカーユニフォーム(これも着て授業)

- ・青年海外協力隊インタビュービデオ(久保隊員・小学校教諭)
- ・ランキングシート→
- ・ワークシート↓

3年 国さいいかい ワークシート①②③
番号 () 氏名 ()
エルサルバドルと日本のちがいは何？

エルサルバドルと日本の共通点(同じところ・にているところ)は？

今日の感想(気づいたこと・考えたこと・ふしぎに思ったこと・びっくりしたこと・にてる理由)

日本とエルサルバドルにてる度 %

3年 国さいいかい ワークシート④
番号 () 氏名 ()
自分がこれからやってみたいと思ったこと、その理由も書きましょう。

エルサルバドルの人たちにメッセージをどうぞ！(どんなことを伝えたいかな？)

まどめの感想(気づいたこと・考えたこと・ふしぎに思ったこと・びっくりしたこと・にてる理由)

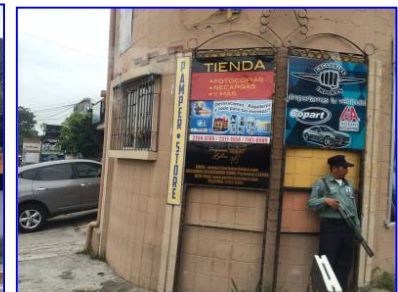
日本とエルサルバドルにてる度 %

ランキングシート

やってみたいことに、
ならべてみよう！

- ・こまっている国への金活動にしよう！よくする。
- ・ニュースで外国のことをやっていたら、しゃべり見る。
- ・外国人に会ったら話しかけてみる。
- ・外国の人たちに自分たちのことを伝えるようにする。
- ・外国語を勉強する。
- ・外国の品物を調べる。
- ・家づくに今勉強したことを伝える。
- ・しょうらい、外国に行くためにちゅう金する。
- ・外国のことを本やインターネットで調べる。

- ・フォトランゲージ用写真(街の風景・人物・学校など)



【第2時】①街中のファーストフード ②バラックで暮らす貧しい人 ③鉄格子の窓と銃を持つ警備



【第4時】①校庭で遊ぶ子ども ②小学校授業中の様子 ③休み時間のおやつタイム

1000円あったらどうする？

エルサルバドル5・6年生

- ・おもちゃを買う
- ・ちょ金する
- ・おやつを買う
- ・シャーペンを買う
- ・食べ物を買う・デザートを食べたい
- ・学校で必要なものを買う
- ・くつを買う・服を買う
- ・よい家を買うためにためる
- ・家族にあげる
- ・役に立つものを買う
- ・路上にいる子どもたちにあげる
- ・友だちのために使う
- ・自分のハンバーガーを買う

金田小3・4年生

- ・おかしを買う
- ・文ぼう具を買う
- ・本を買う
- ・おもちゃを買う
- ・ボールを買う
- ・ちょ金する
- ・旅行で使う
- ・クレーンゲームをする

幸せの理由

エルサルバドル

- ・友達や家族がいるから。
- ・勉強することができるから。
- ・学校に来ることができるから。
- ・遊ぶことができるから。
- ・いのちがあるから。
- ・プールに行けるから。
- ・スポーツができるから。
- ・けんこうだから。

日本(金田小)

- ・友達や家族がいるから。
- ・勉強することができるから。
- ・学校に来ることができるから。
- ・遊ぶことができるから。
- ・いのちがあるから。
- ・スポーツ(野球・スキー)ができるから。
- ・けんこうだから。
- ・相手がはるこぶのかわれい
- ・いろいろなものがあるし、平和だから

※幸せでないと思った理由

エルサルバドル

- ・友達やみんな、自分と遊べないから。

日本(金田小)

- ・いじめられたから
- ・まだ夢がかなっていないから
- ・一週間ゲームができないから
- ・うれしいこともかなしいことも持てない

幸せってなんだろう？

(4) 参考資料等

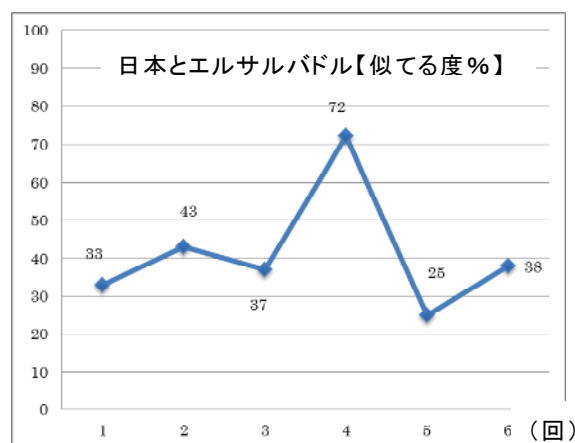
- ・『エルサルバドルを知るための55章』 細野昭雄・田中高(編著) 明石書店 2010年

8 単元をととした児童生徒の反応/変化

授業ごとの似て度%の変化は右グラフの通りである。上がったり下がったりを繰り返していく。与えられる情報によって、いとも簡単にその国に対する印象が変わってしまうことが読み取れる。相違点探しの授業後には低くなり、共通点探しの授業後には高くなる。この「ゆさぶり」が学びを深めると思う。

第5時にはマフィアの実在による社会の負の連鎖を取り上げたため、大幅に下がっている。

また、下表に単元終了後の児童の【感想】と、【これからやってみたいこと】をまとめた。



感 想	これからやってみたいこと
・お店や学校があるし、売っているものもほとんどが同じようだった。 ・エルサルバドルに JICA の人が30人以上もいて、びっくりした。 ・エルサルバドルには日本と同じような人がいたから、なぜマフィアがいるのか気になる。 ・なぜ学校でおかしなものを食べていいのか。 ・コンビニがあることがわかった。 ・日本の車が多くてびっくりした。 ・コーラとか日本と同じでびっくりした。 ・マフィアがいて危険なのに幸せでびっくりした。 ・自分と同じでサッカーが好きでびっくりした。 ・すごく貧乏なことがわかった。 ・色々エルサルバドルのことが知れてうれしかった。 ・行ってみたいと思っていたけど、マフィアの話聞いて、ちょっと行きたくなくなった。	・エルサルバドルの勉強をもっとしたい。 ・外国の人たちに自分たちのことを伝えたい。知ってもらいたい。 ・幸せ度が高いエルサルバドルに行ってみたい。 ・エルサルバドルに行って、実際に人を見てみたい。実際にどんな生活かを見てみたい。 ・<u>幸せの理由をつきとめたい。</u> ・スペイン語を勉強したい。 ・いろんな国をインターネットで調べてみたい。 ・JICA の人を応援したい。 ・お金持ちになっているいろんなことをしたい。 ・JICA に入って困っている人を助けたい。 ・募金活動に協力したい。・日本を紹介したい。 ・JICA になって日本のやり方を教えてあげたい。 ・エルサルバドルの学校で授業を受けてみたい。同じところ違うところを体験してみたい。

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

○成果と●課題

○児童の感想で「幸せの理由をつきとめたい」という児童がおり、探求心をかきたてることができた。

○他学年(4・5・6年)でも1時間ずつ授業を実践したことで、児童の反応を比較し、当該授業の内容の難易度を調整したり、学習活動を精選したりすることにつながった。

○教職員の授業参観や質問があり、授業内容に反映することができた。

●本単元の目標は「自分にできることを考える」であったが、単に考えるだけで終わり、それ以上の自主的な活動にまで高めることができないことが、ワークシート記述やランキングの活動観察から分かった。改善策として、「変わり、行動する」ことまでを目標とした授業を単元末に設定するか、全学年の中での位置づけを明確にし、高学年で「変わり、行動する」ことができるように改善したい。

10 教師海外研修に参加して

成田空港を出発してから、エルサルバドル現地研修を経て、成田空港に帰着するまでがメインの研修であり、学ぶことも一番多いのではないかと参加前は考えていたが、実際は違った。海外研修を終え、授業実践や報告書などについて、共に参加したメンバーと意見交換する中で新たな発見があったり、更なる悩みが出てきたりしたからだ。

本研修へ参加しようと一歩踏み出したことで、そのチャレンジに値する大きな収穫があった。同じものを見てきたはずのメンバーが、全く違う視点や流し方で授業実践をした。きっとメンバー全員、「こうしたら自分の伝えたい思いが伝わるのではないかな」と、試行錯誤しながら考えたはずである。メンバーの

中にも「共通点」と「相違点」があり、それを互いに認め合い高め合うまたとない機会になった。私にとって授業を考える過程は、楽しくもあり苦しくもあったが、それが一番の収穫だったと考えている。